# 声 VOICE

観光を支える方々の声を寄稿、インタビューを基にお届けします

## 「楽しむ力」をキーワードに観光人材を育成

### アジアの観光事業を担う若者を育てる

学校法人大阪観光大学理事長
**山本健慈氏**

まずは能登地震で被災された方々にお見舞いをお伝えしたい。そして観光、地域の再建、復興の志をもつ能登の若者に「大阪観光大学で学びを」と呼びかけたい。志ある能登の若者を迎え入れる(25年4月入学生)ための奨学・生活支援制度を近く公表したい。

大阪観光大学は、南に高野・熊野、北には京都、奈良という古都を望み、また関西国際空港に隣接し、〈観光〉を学ぶ最適な場に位置する。また大学名に「観光」を冠する日本唯一の大学として、観光の高度化・多様化を通じて、社会の持続的な進歩に主体的に貢献できる世界市民・観光人材を養成することをめざす。学生数の7割を占めるアジア14カ国の留学生と3割の日本の若者が、日本と世界の観光・サービス業に巣立っていく。南アジアの学生は、「日本の電車は美しい。子どものころから憧れ」といい、日本語はもちろん9カ国語を話す。「高校までは地理しか興味がなかった。英語、数学とんでもない」という大阪で育った学生は、「父の故郷がさびれていく様子をなんとかしたい」と「地理が好き」で本学を見いだした。「いまは英語が一番楽しい」という。

満遍なく学び、満遍なくよい成績をとることを求められやむなく、あるいは意識的に離脱した若者が、「こだわり」や「好き」を貫き、「観光」という世界を見いだしている。「観光学の世界は、君の好きなこととつながっている」である(『大学案内2024』)。

アカデミックキャリアの教員、ビジネスキャリアの教員が、彼らのこだわりあるテーマを広がりと深みのある学びに導いている。とくに専門の基礎として学生自身の「楽しむ力」を育み、さらに他者を楽しませる職業専門性につなげていく(『大学憲章2022』)。

観光業界は、ウィズコロナ・ポストコロナのなかで新たな展開と活況をみせている。観光という事業世界を自ら楽しむ若い世代の起業、参入、革新的な事業者の登場など。本学が構想実施する観光リカレント教育プラットホームには、これから若手、革新的事業者が参集し官公庁や文科省の応援もいただいている。大学とは、時代の課題、事業実践の持続可能なものにしていく。これは、保護、保存、継承が難しい過疎地域の貴重な遺産を、地域の皆さまだけでなく観光客も一体となって未来の子供たちに欅(たすき)をつなぐ素晴らしい取り組みとも言えます。そして、世界中のあらゆる人々が参加すればもっともっと楽しくなると思います。

観光立国の定義はそれぞれありますが、私は観光文化の研究を通して、多文化共生型の日本らしい笑顔あふれる観光立国の姿を夢見ます。旅のチカラを信じ、自治体やDMO、また、観光関連事業者の皆さまと共に、夢をかなえていきたいと思います。

## 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録20周年

### 「聖地リゾート！和歌山」掲げ キャンペーン展開へ

和歌山県 商工観光労働部 観光局 観光振興課 課長
**林正尚氏**

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は、紀伊山地の豊かな自然環境に根ざし育まれた、多様な信仰の拠点である三つの霊場とそれらを結ぶ参詣道や周辺を取り巻く文化的景観が他に類を見ない資産として認められ、平成16年の登録以来、国内外から多くの観光客が訪れるようになり今年7月で20周年を迎えます。

この貴重な世界遺産を次世代に良好な状態で引き継いでいくため、県では、これまで一般の方が世界遺産の保全に参加できる国内で唯一とも言える「道普請」というプログラムを提供し、企業・団体の研修やCSR活動として多くの皆さんにご参加いただいております。今後も継続して世界遺産の保全活動に参加いただけるよう取り組んでいきます。

また、本県では観光振興の取り組みを進めるため、昨年、新たに「聖地リゾート！和歌山」というキャッチフレーズを掲げるとともに、「知らないオドロキが色々色々」をコンセプトにしたロゴを作成しました。このキャッチフレーズは、これからの和歌山の観光を売り出していくために大切な三つの「S」がコンセプトになっています。

まず、高野山・熊野に代表される「Spirituality（精神性）」。次に、深い森や豊かな海などに象徴される「Sustainability（持続可能性）」。そして、これらから生み出される上質な「Serenity（静謐(せいひつ)さ）」です。この三つがそろう和歌山は、古くから人知を超えた力に触れる聖地として人々を引きつけるとともに、その心や体を癒やすリゾートとして親しまれてきました。これまでも、和歌山の観光は「じゃらん宿泊旅行調査2022」都道府県魅力度ランキングの総合満足度において第1位になるなど、観光地の魅力は高い評価を受けているところであり、引き続き世界遺産に加え、「日本三古湯」白浜温泉」や日本三美人の湯「龍神温泉」といった極上の温泉をはじめ、海・山・川の豊富なグルメやさまざまなアクティビティ、サイクリングなど多彩な観光資源の魅力を国内外に発信していきます。

さらに、今年は世界遺産登録20周年記念事業として、交通事業者などとタイアップしたキャンペーンを展開するとともに、世界遺産登録社寺をはじめ、歴史ある社寺での期間限定の特別行事や地域での記念イベントなどを県内全域で実施しますので、この機会にぜひ和歌山をお楽しみくださいませ。

## 観光を通じた豊かな社会の実現を

### 旅（観光）のチカラ（価値）を信じて 日本を真の観光立国へ

公益財団法人日本交通公社　観光研究部主任研究員
**後藤伸一氏**

旅（観光）にはチカラがある、そう、私は信じています。松尾芭蕉は「旅」を人生と例えました。古今東西、人は「旅」に憧れ、「旅」に恋をし、「旅」に出ることを夢見てきたのではないでしょうか。私自身、17歳でバックパッカーとなり世界を旅し、そのチカラを実感した一人でもあります。今、世界は大きく変わり、コロナ禍で人々が旅に出られなくなったことで、そのチカラ（価値）は見つめ直され、さらにチカラ（価値）が高まってきている、そう、私は思っています。

公益財団法人日本交通公社は、「観光文化の振興」を目的として、「観光を通じた豊かな社会の実現」に貢献することを願い、日々調査研究に取り組んでおります。私どもの研究成果を多くの自治体やDMO、また、観光関連事業者の皆さまに共有し、旅のチカラを最大化させていくことが私どもの使命であり、研究員一人一人、また私にとっても大きなやりがいです。

例を挙げると約10年前、2013年に私どもの機関誌「観光文化（216号）」にて「指標を活用した持続可能な観光地の管理・運営～世界の動向と国内での適用に向けて～」と題した特集を企画するなど、一早くサステナブルツーリズムを研究し情報として発信してきました。他にも宿泊税の導入に代表される観光財源や温泉まちづくり、オーバーツーリズム等について機関誌やセミナーで研究成果を発表してきました。一緒に調査研究に取り組んでいただいた自治体やDMO、また、観光関連事業者の皆さまには感謝の気持ちをお伝えしたいです。

最後に私の好きな「旅のチカラ」を一つ紹介したいと思います。それは、地域の「自然環境」「生活文化」を守り輝かせるチカラです。環境省の国立公園満喫プロジェクトにおける保護と活用、文化庁の日本遺産における保存と活用などはまさにその一例だと思います。少子高齢化が進む日本で、観光を「手段」と捉え、そのチカラを活用することで自然遺産や文化遺産を持続可能なものにしていく。これは、保護、保存、継承が難しい過疎地域の貴重な遺産を、地域の皆さまだけでなく観光客も一体となって未来の子供たちに欅(たすき)をつなぐ素晴らしい取り組みとも言えます。そして、世界中のあらゆる人々が参加すればもっともっと楽しくなると思います。

観光立国の定義はそれぞれありますが、私は観光文化の研究を通して、多文化共生型の日本らしい笑顔あふれる観光立国の姿を夢見ます。旅のチカラを信じ、自治体やDMO、また、観光関連事業者の皆さまと共に、夢をかなえていきたいと思います。

## オーバーツーリズム解消へ 地方観光変革への挑戦

### 若い力で地方観光に爪痕を

道後プリンスホテル　執行役員本部長
**織田祐吾氏**

オーバーツーリズムによる課題が深刻化しているなかで地方への期待が高まる。一方で、例えば10年前と比較して、戦略、施策、組織、中核メンバーがどう変化し、結果として日帰りや1泊が基調の旅行マインドをどう変えたのかと問われると、その答えに苦労される方も多いと思う。

また、コンテンツの数を増やしていくことは必ずしも魅力を高めることにはならない。むしろ希少性や必然性が減退し、全体の価値や訪問意欲を低下させる恐れもある。

私は行政、宿泊業、専門家の立場で地方観光の推進に携わり20年近くになる。松山市時代に立案した瀬戸内・松山構想は、山陽新幹線を基軸に瀬戸内海航路を連結させ、しまなみ海道をループさせる周遊ルートを描きながら、松山・道後・しまなみを核に愛媛の魅力を磨き、広島ブランドにジョイントさせた。これが広島の付加価値となり、修学旅行のマーケットも動かした。

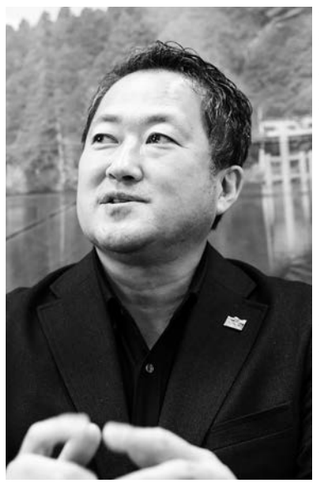
一方、昨年度の国の公募事業「新たなビジネス手法の導入による宿泊業を核とした旅行サービスの提供促進に向けた実証調査」では、館内に「宿の駅（宿泊者と生産者との交流の拠点）」を設置したうえで、緑ナンバー取得のプレミアムバスを活用し、宿の駅発の生産者やその故郷へのツアーに誘う「道後×しまなみ周遊滞在促進誘客ビジネスモデル」を提案し採択を受けた。現在、観光庁HPで宿泊業が展開する広域周遊の取り組み事例として全国で唯一紹介されている。

これらの経験と教訓、また、専門家として全国のさまざまな地域での活動から、地方観光の推進のための行動を整理した。

一例を挙げると、①コンテンツはフォーカス&ニューコンビネーション、つまり「〝あれもこれも〟より、〝あれとこれ〟＋ストーリー」②宿泊施設を拠点とした2泊以上の滞在を促進する商品の企画造成③プラットホームの形成④交通キャリアや新幹線の主要駅のある近隣エリアから注目され、連携価値やビジネスチャンスをもたらすレベルまで高めていく継続的な行動―などである。近い将来、「1泊や2泊で物足りない、もったいない○○（県名）」で地方が競い合えるよう独自のモデルで提案活動も続けたい。

また、観光、宿泊業を担う人材が不足しており、特に、若年層の獲得、即戦力化は緊急課題である。弊社では、宿泊業には人を成長させる舞台として社会人即戦力を育み、輩出する専門学校的な役割もあると発想を転換した。若い力を引き出し地方観光に爪痕を残す斬新な取り組みにも挑戦している。

## 箱根観光デジタルマップ稼働



### 混雑、渋滞の緩和へ

箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）専務理事
**佐藤守氏**

デジタル技術を活用した混雑状況の可視化を踏まえた観光ルート提案・クーポン発行などによる旅マエ・旅ナカの情報発信とスムーズな箱根周遊を促進する観光デジタルマップを昨年11月に稼働しました。

箱根町は、首都圏から1時間強で訪れることができる観光地であり、箱根神社・箱根関所などの歴史史跡、風光明媚な芦ノ湖、17の温泉が集まる温泉リゾートとして、年間約2千万人の来訪があります。

現在、観光需要の回復、インバウンド需要の増加もあり、交通渋滞、公共交通の混雑、飲食店での行列など、休祭日を中心に渋滞・混雑が課題となっています。箱根DMOは、このような課題を解決して需要の分散・平準化を図るために、デジタル技術を活用した「箱根観光デジタルマップ」を昨年11月にプレリリースし、順次機能を拡張し、本格稼働しました。

「箱根観光デジタルマップ」は、交通や店舗の混雑状況を可視化し、スムーズな周遊をサポートする「店舗・施設の混雑状況発信、予約」「おすすめ周遊ルートの案内」「混雑状況に応じたクーポンの配布」「ガイドツアーの案内、予約」などの機能を盛り込み、「旅マエ」「旅ナカ」での情報発信を行うデジタルマップサービスです。

一例ですが、渋滞情報の可視化では箱根町内の道路状況をリアルタイムに見るためにAIカメラを設置しており、この情報等を踏まえ、交通量予測モデルを開発し、渋滞予測情報をデジタルマップ上に表示します。箱根町内の6カ所の駐車場混雑状況をデータ取得し、デジタルマップ上に混雑・交通情報を表示することで、車利用の観光をサポートします。箱根温泉DX推進コンソーシアムでは、本事業を通じて、旅行者の空いている時間帯・時期・場所への誘導・分散化を実現し、観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現してまいります。

本事業の取り組みは、政府が昨年10月にとりまとめた「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」にも掲載されております。箱根温泉DX推進コンソーシアムでは、交通機関の運行の可視化では各交通機関の運行状況、時刻情報を表示します。タクシー乗り場での待ち人数データとともに、スマートフォンやPCで交通状況が確認できるため、最適な交通手段の選択や、渋滞を避け時間を有効活用した観光周遊が可能となります。

本事業では箱根温泉DX推進コンソーシアムを形成し、地域内外の多くの連携機関と事業者間で連携し、観光DXに取り組んでいます。

## 地域活性プロジェクト



### 地域と共に100年続く「美しい村」へ

ヴィソン多気　代表取締役
**立花哲也氏**

VISONは三重県のほぼ真ん中にある多気町に位置し、伊勢神宮・熊野古道など、周辺の観光地にも近いアクセスの良い場所にあります。広大な敷地に、四季を感じるホテル、日本最大級の産直市場、薬草で有名な多気町にちなんだ薬草湯、和食の食材メーカーによる体験型店舗、有名料理人が手掛ける地域食材を生かした飲食店舗、オーガニック農園など、約70店舗が出店する、多様性と専門性を兼ね備えた大型複合商業施設です。

多気町長より地元の農産物と歴史ある薬草栽培を軸に地域活性ができないかとお声がけいただいたことがきっかけでVISONのプロジェクトがスタートしました。伊勢、紀勢両自動車道が交わる勢和多気ジャンクションに近く、東京ドーム24個分の広大な敷地に展開するというスケールの大きさから、イオンタウン、ロート製薬、ファーストブラザーズとともに合同会社「三重故郷創生プロジェクト」を設立しました。4社共同で事業に取り組み、8年の構想を経て2021年7月に開業いたしました。

食文化をテーマに、地元の農産物や薬草、伝統ある発酵食を学び体験する「美村（美しい村）」が施設名である「ヴィソン」の由来です。ぬか床で発酵させた漬物や、だしから取るみそ汁など、伝統の味や製法を大切に守る老舗や素材にこだわるメーカーや企業に出店いただいています。さらにはこの場で醸造や発酵といった製造業務も行い、VISONは日本の食、発酵文化を守り伝え発信する拠点としての役割も担っています。

その他のテナント様もいわゆるナショナルチェーンやコンビニエンスストア、自動販売機は設置せず、専門性が高く、唯一無二のこだわりの名店に出店していただいています。また建物は木材をふんだんに用い、伊勢神宮の式年遷宮を手本に、地元の大工さんと共に木を張り替えながら使い続けていきます。そして、店もデザインも100年先まで伝えたい日本が誇る食や文化が集結する施設として、サステナブルな新しい地方創生モデルを地域の皆さまと共につくりあげていきたいと考えております。

またこの地域は人口減少や、地域医療の減少、公共交通廃線など、他の地方と同様の課題を抱えています。VISONは周辺5町と連携し、デジタル技術の活用した課題解決に向けての取り組みも進めております。施設内にはオンライン診療が受けられるクリニックがあるほか、デジタル地域通貨を採用。さらには昨年末より自動運転車両を導入し、観光だけではなく誰もが利用できる持続可能な移動手段の実現を目ざしております。

今後もこの多気町から、100年続けられる地域活性化の成功モデルを発信していきます。